

# 文書館は 福井の歴史とあなたをつなぐ かけ橋です。

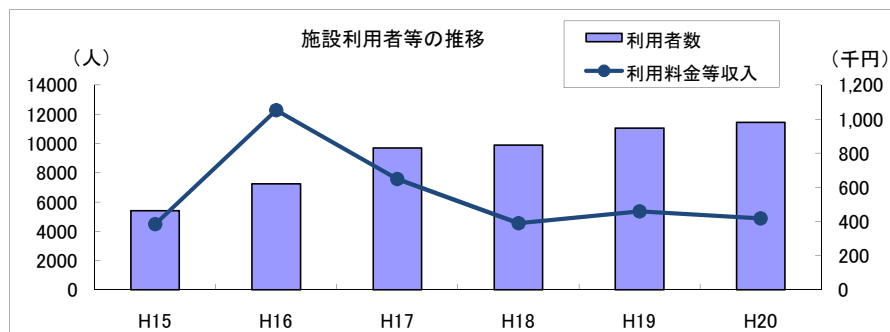
所在地	福井市下馬町51-11		
設置年月日	平成15年2月1日		
施設の種別	文書館	施設管理主体	県
設置の目的	県に関する歴史的な資料として貴重な公文書、古文書等の収集、保存、調査、研究等を行い、広く一般に公開して閲覧利用に供し、県民の歴史探求、生涯学習を支援することにより、学術の振興および文化の向上を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造 地上2階、延床面積3,119㎡ 収蔵冊数 歴史的公文書3万6千冊、古文書複製本3万2千冊、行政資料1万8千冊		
職員数	職員6人 非常勤嘱託6人 アルバイト2人 計14人		

## 利用状況等

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
利用者数(人)	5,417	7,242	9,703	9,880	11,046	11,451
閲覧申込点数(点)	4,227	7,045	13,819	7,595	8,073	7,593
ホームページ閲覧件数	737,160	733,759	810,067	1,147,307	1,086,863	1,030,816

## 利用者負担(利用料金)等

施設使用料	研修室	6,600円 (全日の場合)
複写手数料	白黒	10円
	カラー	80円



**利用状況の推移**

平成15年2月の開館以来、利用者数は毎年増加しており、平成20年度は前年度に引き続いて1万人を越す11,451人の利用がありました。ホームページでは所蔵資料の検索や歴史情報の収集ができ、平成19年度に引き続き100万件の大体を確保する、約103万件余のアクセスがありました。平成16年度後半から17年度にかけて特定の利用者による集中的な閲覧利用があったため、閲覧申込点数、利用料収入とも一時的に増加しましたが、20年度は平年並みの水準に戻りました。

## 施設の特徴

### 歴史的資料の閲覧利用

収集した歴史的公文書や古文書は、一般に公開しており、調査研究活動などに利用することができます。



最古の三くだり半 玉村九兵衛家文書

### 企画展示・収蔵資料展示

家族で楽しみながら県の歴史を学べる企画展示や月替わりで様々な収蔵資料を紹介する展示を行っています。



1月展示「北国白山天嶺之図(部分)」

### 講座・講演会等の開催

古文書の読み方を学ぶ古文書入門講座、福井県の県史講座、講演会などを開催しています。



文書館講演会

### 学校教育との連携

学校の授業や学習活動が展開できるよう、支援を行っています。

- ・県立高校出張授業
- ・インターンシップ受入
- ・中学生の「郷土新聞」作成支援



県立高校出張授業

## 文書館ホームページ

<http://www.archives.pref.fukui.jp/>

## 平成20年度の特徴について

事業実績	○平成20年7月に企画展「授業にでてくる ふくいの史料」を開催しました。歴史の授業や教科書には織田信長や豊臣秀吉、由利公正などの人物の名前が出てきます。学校では見られないこれらの人物に関する本物の史料を展示しました。 ・開催期間 平成20年7月25日～9月23日
	○企画展示に前後して、当館が寄託を受けた「三くだり半」が、確認された中では全国最古のものであることが判明したため、ミニ展示で紹介するとともに専門家による県史講座を開催しました。
	○月替わりで収蔵資料を紹介する展示を行いました。だるまや少女歌劇に関するプログラムやプロマイド、戦国大名朝倉氏の丹生郡織田地域支配がわかる古文書、参拝客の「おみやげ」用に作られた寺社名所案内図など、様々な資料を原本で展示しました。
	○県の広報写真フィルムから、ちょっと昔の福井県と題して、昭和30年代から40年代の大野市、勝山市、鯖江市および越前市ならびにスポーツに関する写真をパネルや原本で展示しました。
	○春に開催の古文書入門講座の受講希望が多かったため、「もう一度古文書入門講座」と題して秋にも開催しました。平成20年5・6月(3日間)、10・11月(3日間) 計134人受講
○学校教育との連携で、日本史の授業に出張して視聴覚教材を使った出張授業を武生東高校で実施するとともに、中学校教職員を対象とする研修講座を開催しました。	

# 福井県文書館(2/2)

行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	77,123	57.6%	101.9%
	退職給与引当金繰入	66	0.0%	-91.7%
	賞与引当金繰入	3,055	2.3%	皆増
	計	80,244	59.9%	106.1%
物にかかるコスト	物件費	33,966	25.4%	80.8%
	維持補修費	744	0.6%	71.7%
	減価償却費	13,709	10.2%	101.1%
	計	48,419	36.2%	85.5%
その他	支払利息	4,398	3.3%	32.8%
	その他	745	0.6%	183.5%
	計	5,143	3.9%	37.2%
合計		133,806	100.0%	91.6%
収入	利用料等収入	417	0.3%	90.8%
	一般財源	133,389	99.7%	92.4%

バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

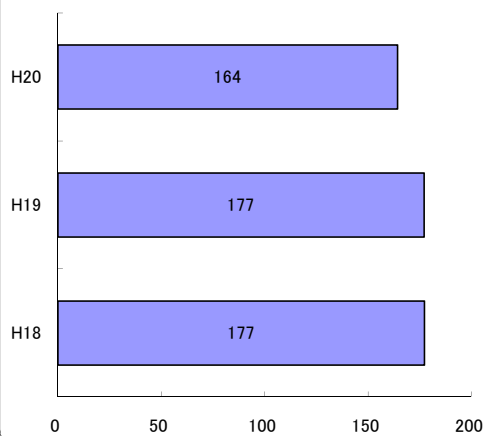
借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	570,580	98.4%	固定負債	352,566	34.3%
うち建物	543,430	97.8%	うち起債残高	318,328	32.5%
			うち退職手当引当金	34,238	71.8%
投資等	0	-	流動負債	36,598	46.2%
流動資産	0	-	純資産	181,416	-34.5%
計	570,580	98.4%	計	570,580	98.4%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H20	H19	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	702	711	98.8%
県民1人あたり将来負担額	434	1,260	34.4%
世代間負担率	31.8	△ 90.7	-35.1%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>文書館の主要事業である歴史的公文書、古文書の収集、整理、調査、研究は業務が特殊なため、委託が困難であり、そのほとんどを職員が直接対応しています。(文書の調査・研究を専門に行う職員3人、非常勤嘱託6人)</p> <p>こうした事業については、人件費以外の費用はあまりかからないので、結果として事業費に占める人件費の割合が相対的に高くなっています。</p> <p>また、本県文書館は、図書館との併設で利用しやすい環境にあること、展示等による施設のPRに努めていることから、他県施設と比較しても利用者が多い状況にあります。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>福井県の貴重な歴史的公文書、古文書、行政刊行物などの資料の収集、整理、保存および調査研究を行っています。</p> <p>【収蔵冊数の増加 歴史的公文書 約2,800冊、古文書 約200冊、行政刊行物 約500冊】</p> <p>収集した資料は、県民の調査研究活動や生涯学習を支援するため、広く一般に公開しています。</p> <p>古文書入門講座や県の歴史についての講座・講演会、企画展示、収蔵資料展示などを開催し、県の歴史や歴史的資料の重要性について情報提供を行っています。</p>
今後の課題	<p>歴史的公文書や古文書という特殊な資料を保存し、閲覧利用するという施設の性質上、利用者の範囲が古文書の研究者、歴史愛好者などにある程度限定されています。県の歴史に関する多くの貴重な資料の利用を県民にも広げていけるよう、歴史的文書への関心の喚起や新出資料の情報提供などが必要です。</p>
今後の事業方針、取組み内容	<p>近隣県の文書館と比べても、本県文書館の利用者は非常に多く、利用者は毎年増加していますが、今後も以下の取組みにより、さらに利用者の増加を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展示や収蔵資料展示で新出資料を含む収蔵資料の紹介を行い、館の歴史的資料をPRします。</li> <li>学校教育との連携を進め、中高生の授業などでの資料活用を図ります。</li> <li>県民ニーズに応じた講演会や講座を開催し、多くの県民の方に資料に触れる機会を提供するなど、県民の生涯学習活動を支援します。</li> <li>ホームページで講座の内容や刊行物などを公開し、福井県の歴史を学習できる環境整備に努めます。</li> </ul>

県民1人あたりのコスト負担の状況(円)



東海北陸の文書館の10万人あたり利用者数(人)

